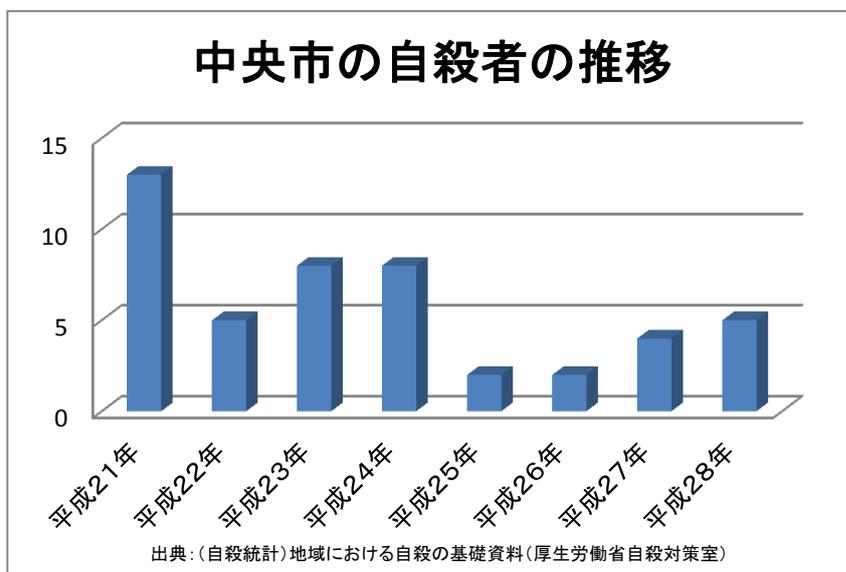


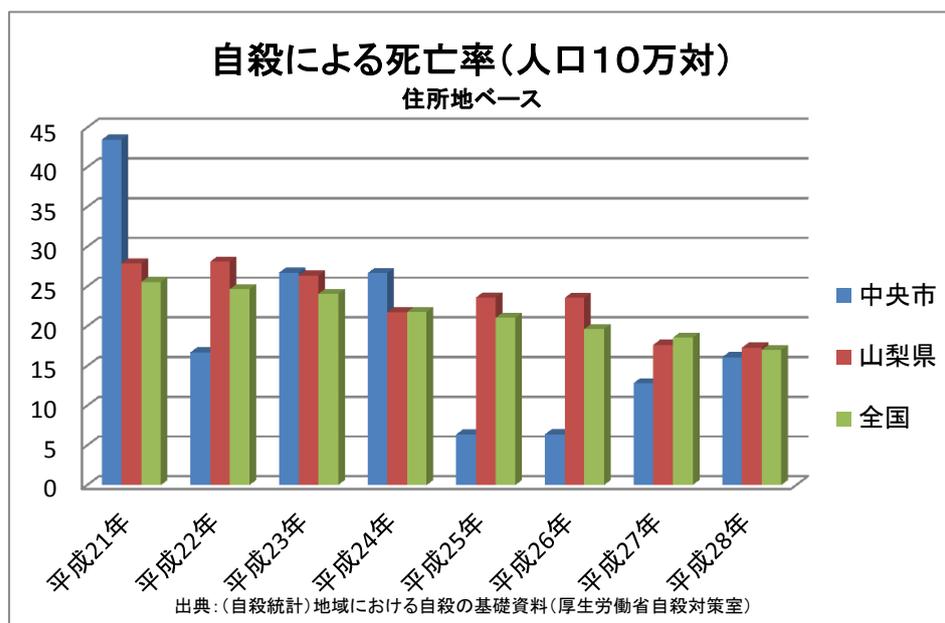
4 地域の状況

(1) 自殺数の推移



♥市の自殺者数は、近年5人未満で推移しています。

(2) 自殺率の推移



	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
中央市	43.49	16.71	26.74	26.68	6.38	6.39	12.83	16.14
山梨県	27.91	28.12	26.38	21.74	23.61	23.56	17.65	17.30
全国	25.56	24.66	24.06	21.78	21.06	19.63	18.57	16.95

♥平成25年より山梨県や国の死亡率より低くなっています。

自殺総合対策推進センター（JSSC）資料

(3) 自殺の概要 (H21～H27の7年間の平均)

①自殺者数 ♥平均6人/年で、50代男性に高率でした。

6.0 人/ 年		平均	～19	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80～
	男性	4.7	0.0	1.0	0.9	0.7	1.1	0.9	0.0	0.1
	女性	1.3	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.4	0.1

7年間の平均

出典：(自殺統計)地域における自殺の基礎資料(内閣府)

②死亡率 ♥平均19.7/10万人。国、県より低率ですが、20代、50代の男性が高率

19.7 /10万 人		全年代	～19	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80～
	男性	31.0	0.0	54.5	39.5	31.5	55.2	42.8	0.0	23.7
	女性	8.4	0.0	8.2	7.0	6.9	6.9	7.2	32.7	12.6

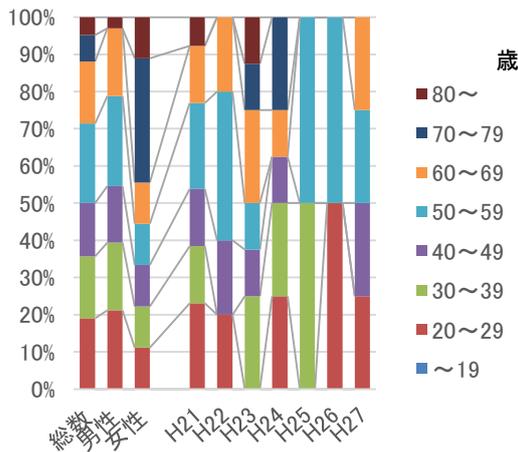
7年間の平均。

出典：(自殺統計)地域における自殺の基礎資料(内閣府)

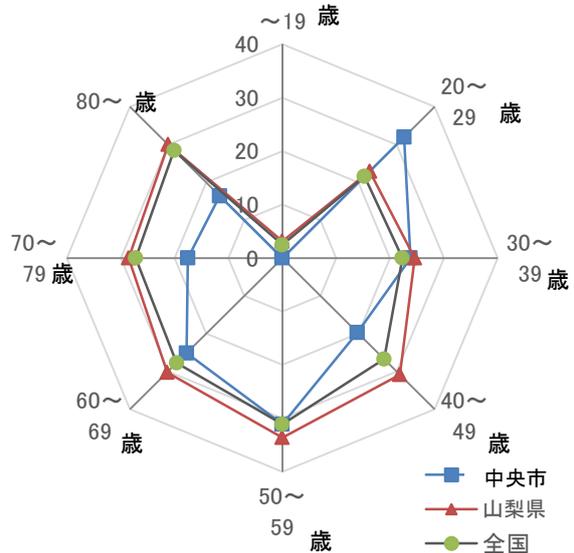
全国の男女計平均（7年合算）は22.2/10万人、山梨県は24.2/10万人。

死亡率の基準人口には各年の住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査（総務省）を用いた。

③年代別自殺者の割合



④年代別自殺死亡率



⑤同居人の有無

	人数	(%)	死亡率
あり	27	64.3	13.9
なし(独居者)	14	33.3	55.9
不詳	1	2.4	-

7年間の合計 死亡率にはH22年国勢調査を用いた

♥中央市においては、19歳以下の自殺者はいませんでした。20代、50代の比率が高く、特に20代は国・県に比べ高率でした。

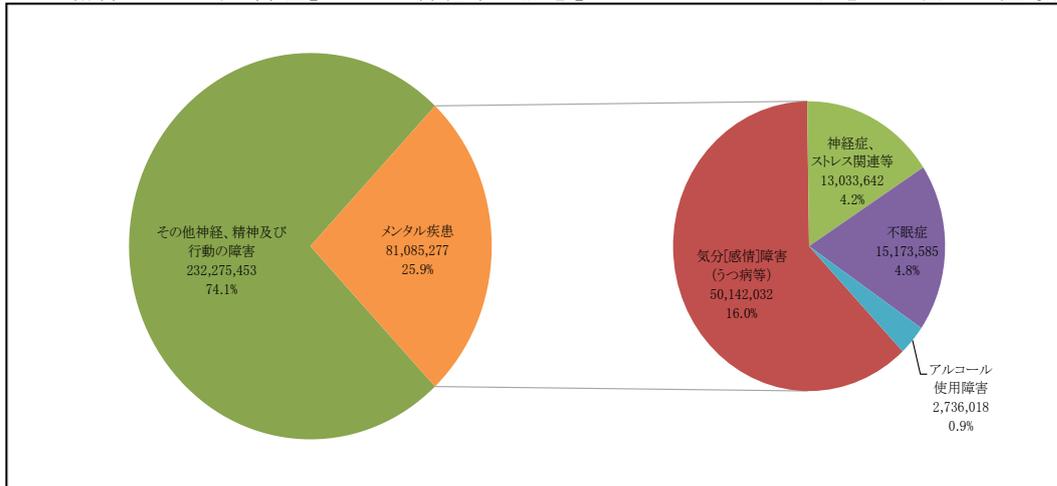
♥同居人の有無を見ると、同居人「あり」と「なし」の割合は概ね2対1です。しかし世帯に関する統計を使って自殺率をみると、「なし」に、大きな差がみられました。

⑥医療費全体におけるメンタル疾患の割合

♥大分類による疾病別医療費をみると、医療費全体における「V. 精神及び行動の障害」「VI. 精神系の疾患」の割合は13.5%であり、このうち“メンタル疾患”の割合を集計すると25.9%でした。中でも「気分[感情]障害」が多くを占めています。

※…「V. 精神及び行動の障害」分類には認知症、統合失調症、知的障害等が含まれ、「VI. 神経系の疾患」分類にはパーキンソン病、アルツハイマー病、てんかん等含まれる疾病が多岐にわたる。

「V. 精神及び行動の障害」「VI. 神経系の疾患」のうち“メンタル疾患”の占める医療費割合



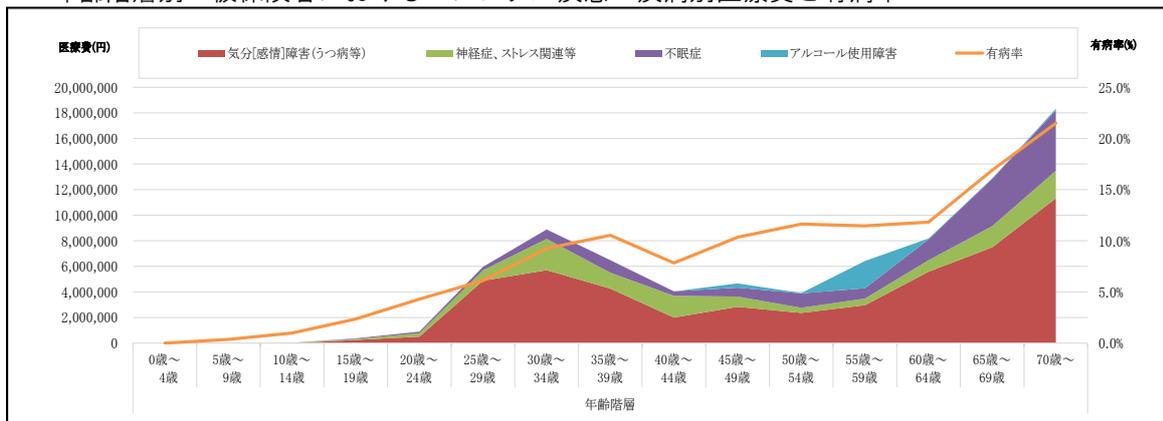
データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)。

中央市国民健康保険ポテンシャル分析(平成28年8月)より

⑦年齢階層別の有病率と医療費

年齢階層別 被保険者における“メンタル疾患”疾病別医療費と有病率



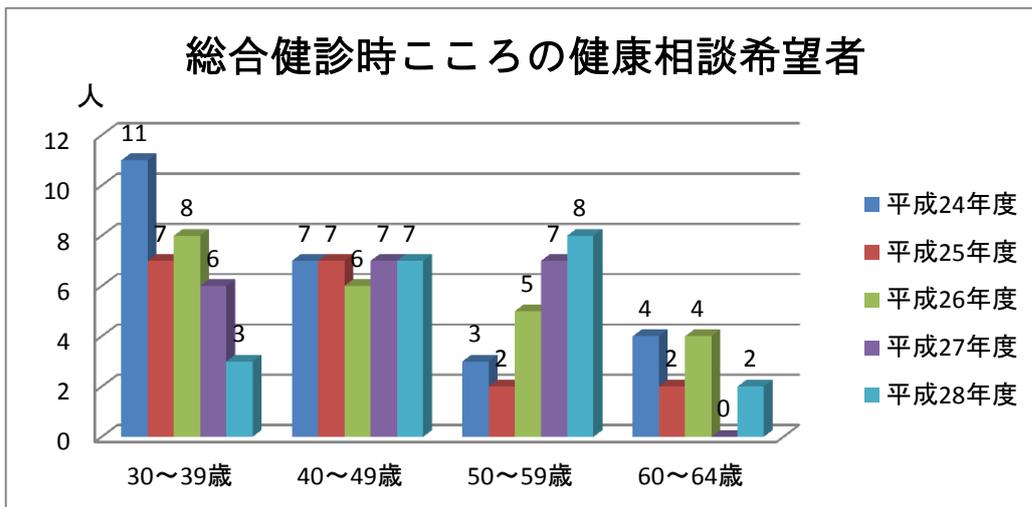
データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)。

中央市国民健康保険ポテンシャル分析(平成28年8月)より

♥「気分[感情]障害(うつ病を含む)」が20代後半から30代に多く、また50代後半から増えています。60代からは不眠症の治療が増え、50代・60代はアルコール使用障害の治療者が見受けられます。

⑧総合健診 ストレスチェック後のこころの健康相談者



♥平成22年より、働き盛り層（30～64歳）のストレスに対するセルフチェックを総合健診に導入しました。身体健康チェックとともに、こころの健康チェックとして浸透してきました。平成28年度受診者の概ね 17.0%が抑うつ傾向であるものの、相談希望者は 20人ほどです。希望者全員に声をかける事が出来、保健師の相談や臨床心理士によるカウンセリングにつながっています。

♥平成24年度時は30代にこころの健康相談希望者が多かったのですが、平成27年・28年度は40～50代が多くなっています。相談内容には、再就活がうまくいかない、職場の人間関係、子どもとの関係などでした。

⑨乳幼児健診におけるストレスチェック

本市においては、合併時より「母親のこころの健康チェック」を実施しており、うつ予防に早期から介入・支援しています。

	H26年度		H27年度		H28年度	
	7点以上の得点 / 受診者	割合	7点以上の得点 / 受診者	割合	7点以上の得点 / 受診者	割合
4か月健診	43人/243人	17.7%	40人/251人	15.9%	43人/225人	19.1%
12カ月健診	43人/245人	17.6%	36人/248人	14.5%	35人/226人	15.5%
1歳6か月児健診	41人/262人	15.6%	69人/217人	31.8%	35人/223人	15.7%
3歳児健診	38人/223人	17.0%	42人/246人	17.1%	32人/211人	15.2%

GHQ検査で7点以上を高得点者としている

⑩相談者からの声

(1) 「生きていることがストレス」

40代 女性 ストレスチェックからカウンセリングへ
中学生頃 いじめ → 鎖で首をしめた（家族に気づかれた） → 大人になって買物依存 → 借金がばれた → ケンカ → 自殺念慮

(2) 「一生懸命やっても振り回されるだけで、生きる気力もない。死ねないから生きている状態」

60代 女性 ストレスチェックからカウンセリングへ
両親との関係も憎しみや怒り 少しの事でもひどい落ち込み → 強い自己否定
職場の人間関係、母子関係の不満。
この人は信頼できるなと思っても、そうではなかった孤独感。

(3) 「自分は、子どもに対して普通の愛情がもてない」

30代 女性 ストレスチェックからカウンセリングへ
虐待家庭で育った → 親しい人間関係ができると攻撃してしまう
愛情を受けて育ったという実感ない
子どもをかわいいと思えず抱っこしたくない。それを無理して一緒にいることが心の負担。

(4) 「時々死んだ方が楽かなと思う事もある」

50代 男性 セルフチェックからカウンセリングへ
睡眠よくて5時間、悪いと3時間 寝つけず30分から1時間かかる
頭痛、胸痛、神経痛と、体調悪い。
誰かを巻き込まずに一人だけ事故死できたら、保険金もはいる。自殺は失っていくものが多いからよくないと思っている。

(5) 「自分の居場所がない、目先の目標がない」

20代 男性 他機関からカウンセリングへ
被虐待者 → 自己肯定感が低い、切り替えが悪い
家族関係や人間関係がうまくいかず、仕事に集中できない。 仕事辞めた。

(6) 「自分は感受性が強い。仕事を何回も替えた」

40代 男性 セルフチェックからカウンセリングへ
一人っ子で母から溺愛 → いじめ → 高校ひきこもり
強く言われると苦しくなる。気が弱い。
自分を責め、自殺念慮もあるが、実行を具体的に考えたことはない。

多くの人が危うい状況にいることがうかがえる。